

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201645		
法人名	有限会社 グループホーム すだお		
事業所名	グループホーム すだお	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市須田尾町18-1		
自己評価作成日	平成26年6月14日	評価結果市町村受理日	平成26年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年7月22日	評価確定日	平成26年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者本位の安全で快適な居住空間を提供します、食事内容の充実にも力を入れています、健康管理面では看護師を配置し充実を図っています、医療体制は嘱託医による毎週の往診をお願いしてあり夜間など緊急時への対応や状態の変化にも安心してご利用して頂けます、入居に際しての権利金、保証金、敷金、などはありません

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームすだお”は開設から11年目を迎えている。開設時からの入居者もおられ、開設時からの職員も勤務し、代表は働きやすい環境作りを続けてこられた。2階のリビングには七夕飾りがあり、今年の七夕も小学生(30人以上)が飾りつけをして下さり、ご利用者も「元気に過ごせますように」等の願いを短冊に書かれていた。1階の廊下には、小学生の子ども達の顔写真と名前が貼られ、長年の交流が続けられている。ご利用者はリビングで過ごされる方が多く、ゆったりとした時間が流れている。生活リハビリにも取り組み、車いすからソファへの移乗の機会を作られたり、トイレでの排泄支援も大切にされ、できる部分はご自分でして頂くように、日々“待つケア”が行われている。ご利用者の重度化に伴い、個別対応が増えている中、職員の観察力は高まり、小さな変化もホームの看護師に報告している。今後も“認知症ケア”の専門施設として、職員全員が認知症ケアの理解を深め、行動障害の背景にある原因分析及び対応策の検討を続ける中で、“明るく、楽しく、笑い声のたえないホーム”を目指されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有については皆が理解をし心にかけているが、理念の実践については日々の作業に追われ、十分に個々の項目にそっての行動となっているとは言えない	理念にある、「…一人一人がその人らしく生活する為に…」と言う内容も大切にされており、ご利用者個々の生活ペースを保てるように配慮している。ご利用者は日々の想いや要望を職員に伝えており、職員も個別対応を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童センターや小学校の生徒さんとの定期的な交流を行っている、町内会、役員の方との連携を行うことにより町内の情報の収集やホームの実態を理解してもらうようにしている	地域包括からの依頼もあり、木風地区福祉祭りに職員がボランティアとして参加する事ができた。小中学生や児童センターの子ども達との交流も行われ、小学生が植木鉢に花を植えて下さったり、中学生のリーダー演奏も楽しまれた。今後は、少人数でも地域行事に参加できればと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な地域貢献の実例は無い		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価への取組状況や報告は行っているが、内容についての意見や、提案はあまり出していない	ご利用者の状況や行事報告等が行われ、参加者の方々に意見を求める事で、徐々に意見や質問等も増えている。会議は和やかな雰囲気で行われ、地域包括の方から福祉祭りの情報を教えて頂いたり、民生委員の会合で得られた情報等も教えて頂いている。	今後も更に、運営推進会議の参加者を増やし、情報交換の幅を広げていきたいと考えている。地域の派出所の方への声かけを行うなど、ゲストとして参加して下さる方を増やしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請や手続き上の相談などのみである	代表、計画作成担当者が市役所を訪問し、認定に関する相談等も行っている。市の担当者とは顔馴染みであり、市主催の研修会にも参加し、研修内容は日々の感染症対策などに活かしている。今後も引き続き、不明点等を市の担当者に相談していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時の条件を守り身体拘束0を目指している	ベットの転落予防のため、センサーを使用する事を家族に相談し、ご本人にも説明が行われている。日々の見守りも行われ、行動障害の原因分析や対策の検討も続けている。連日の行動障害に伴う職員のストレスケアを行うと共に、認知症ケアの理解を更に深めていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2名が19年に長崎県身体拘束廃止推進員養成研修を受講済み 内1名が24年11月に再度研修受講済み、その他職員は各種研修会の機会に参加するように配慮している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度についての講習を受講済みだが、実際に対応した事はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に従い十分に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時、気軽に話をしたりして、話しやすい雰囲気は作っておりコミュニケーションも取れている、こちらから家族の方へお願いすることはあるが家族の方からは質問程度があるだけで特別な意見や要望はほとんどない	2ヶ月に1回、ご利用者の日常生活や身体状況が記載された近況報告書を郵送している。家族の方は、認知の進行状況等を心配されており、日頃の状況を報告する事で安心されている。看取りケアへの希望も伺い、ホームでの看取り支援をさせて頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に意見の言いやすい雰囲気作り心がけ、前向きな意見に対しては取り入れるようにしている	代表・事務担当者・計画作成担当者などが、職員個々の希望を伺っている。休みの希望や研修希望などを叶えており、職員からも「働きやすい」という言葉が聞かれている。職員の意見やアイデアも多く、アイデアが聞かれた時は、日々の業務に活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の方はほとんどが主婦の方であり勤務時間や休日など働きやすい環境作りに特に配慮をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得に関しては積極的に推進しており、研修会等への参加にも多少の援助と優先的に受講が出来るような配慮を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加は計画作成担当者を選任し交流の機会を増やすと共に、その他の職員も交流の機会や、研修の機会を多くするよう配慮している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面会を行いコミュニケーションをとっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人と同様、面会を行い情報の収集、アセスメントの作成を行い、家族の要望を把握するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に関わりのあった他の施設やケアマネージャー、行政の担当者の方の意見を聞き入所前のケアプラン作成の参考とする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が、ホームの基本的な方針として理解し、家庭的な環境作り、対応に勤めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	重要事項説明書の説明に合わせ、本人の孤立感の防止のため面会の頻度を多くしていただくよう家族の協力要請を行ったり、入所後いかに家族との連携強化に努めていくかなどを話し合ったりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方の入所前の情報については把握があまり出来ていない、以前より入所の方への訪問も少なくなっている	入居の時に家族や病院関係者から情報を頂いている。日々の生活の中で生活歴を把握し、歌が好きな方には歌番組等を見て頂いている。家族や知人の面会時には居室でゆっくり過ごされており、家族と一緒に墓参りに行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状では入居者の状態の悪化により、利用者同士の関係の中ではうまくコミュニケーションが取れなかったりすることが多くなっているため、トラブルにならない様に間に入り支援したりしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や、他の介護施設などへの移動後も面会に行ったり、家族への支援を行うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の打ち合わせ、月1回のケアカンファレンスなどで、職員の気づいた事、本人との会話の中で把握したことを、本人の希望として家族との面談の中で話し合い、対応を図っている	希望を言われる方は限られているが、「刺身が食べたい」などの願いは叶えている。「歌が好き」「お風呂が好き」「新聞を読む事が好き」などの意向を把握し、日々の生活の中で楽しめるようにしている。ご利用者個々の生活リズムがあり、そのペースを崩さないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に独居だった方の暮らしの把握は難しいが、出来る限り本人、家族、他の介護支援機関、行政などからの情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には見守りや、本人との会話や、身体の介助など、日常生活の中で把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状ではケアスタッフ中心の介護計画であり広い意味でのチームケアとはなっていない、特に本人、家族の意向、意見の反映が難しく適切な内容とはなっていない	ご本人と家族の要望を大切にしている。カンファレンスで職員と話し合い、計画作成担当者が計画を作成している。主治医や看護師の意見も反映し、自立支援の視点も大切にしている。生活リハビリも取り入れ、できる事はして頂いている。	職員は介護計画を基に日々のケアを行っている。今後はアセスメントを深め、生活歴(馴染みの関係)やご本人の能力(できる事・介助が必要な事など)の詳細な記録と共に、行動障害の原因(対策)も記録に残していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日誌のほかに特に変化があった場合には特記事項として別の欄にも記入し全員で情報の共有を図ったり、食事の摂取表、入浴時の身体チェック表、排便チェック表などにより、職員間で状態の変化などを早期に発見し、対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの行事などは、報告だけではなく、現状では不足している家族への参加、声掛けなどを図っていきたい		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り地域の行事にも参加をしたいが、心身の状態の低下により年々難しくなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現状は入居者全員が協力医療機関の嘱託医が主治医となっている、毎週の往診や、緊急時の対応、診療科目によっては適切な医療機関を紹介していただいたりと、緊密に連携が取れている	必要時は職員が通院介助を行い、受診結果はホームの看護師が家族に電話で報告したり、変化が無い時は近況報告書に記入している。職員の観察力や気づきも高まり、日々の変化を観察し、早期対応に繋げる事ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時には身体のチェック表により異常の発見に努めたり、日常生活の中でも気づいた事は看護師に報告し、毎週の主治医の往診時にホームの看護師が個々の利用者の状況を報告し指示を受けるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通して入院時の医療機関との連携を図っている またホームも病院の看護師と状態について聞いたり、家族と連携し入居者の援助を行っている、退院の時も病院のソーシャルワーカーや、ホームの主治医と連携し対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族との話し合い及び提携医療機関、施設とも連携を行っている	ホームでの看取りは原則行わない事になっているが、家族の希望もあり、23年と25年、医療連携の基で看取りケアが行われた。看護師が中心になり、カンファルスで職員との情報共有も行われ、家族もホームに来て下さり、誠心誠意のケアが行われた。日頃から重度化しないように、生活リハビリにも取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが外部研修の機会があれば参加する、利用者ごとの対応や、医療機関との連携などは決めている、応急手当については看護師を中心に行う		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の避難訓練を行っているが、実際に行ってみると、ご利用者の避難誘導は難しいと理解している スプリンクラーなどの消防設備は設置済み	毎年、消防署の立ち入り検査が行われている。2階の1つの居室の窓から隣の敷地に避難可能であり、訓練時は、その居室までの移動訓練が行われている。管理会社の方も訓練に参加して下さり(年1回)、災害時は民生委員や近隣の方(代表の実家)、職員に自動通報される。災害に備え、飲料水や缶詰等を準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけているつもりでも、親しみや慣れのために、そのような事が発生する時が見られる為、注意、指導を行っている 名前は名字で呼ぶ、ドアの開閉時には必ず声掛けノックをするなど	日々の生活の中で、ご利用者個々の生活リズムを大切にされている。ご本人の意思を尊重し、日々の活動への要望も職員に言って頂ける関係ができています。職員は言葉遣いに気をつけ、排泄の誘導時も声の大きさに配慮しており、個人情報の取り扱いも注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、本人の意思を尊重した対応に勤めている 食べたいものや、希望のものなど、家族との連携支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはその様にしているが、自分の部屋で過ごしがちな人や、ベット臥床を希望する人などには、すべて本人の希望通りに、対応する事が良いとはいえない場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に行事や、外出などのときは、日常と違った、身だしなみやおしゃれに、気を配っている 家族の協力により理容室や美容室に出かけたり、簡単な整髪などはホームで実施したりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、入居者の方の重度化などにより、食事の準備などに関してはほとんど参加して頂いていない、調理に関しても衛生面の心配があり参加して頂いていない	代表は食事を大切にされており、3食とも職員が手作りしている。職員が毎日の献立を考えており、品数も多い。器にも配慮し、新米や旬の野菜を使った美味しい料理が作られている。下膳をして下さる方もおられ、今後も“家庭的”な食事時間となるように努めていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や、水分の摂取量については健康維持のため特に気をつけている、食事は摂取量の記録をつけている 嚥下状態により、きざみ食、ミキサー食やトロミをつけたりして対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方それぞれの状態にあわせ実施している 必要に応じ歯科医の往診も依頼している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、1人の方の夜間を除きオムツは使用せず誘導によるトイレでの排泄介助を基本としている	各居室にトイレがある。夜間の物音にも気を配り、排泄時の転倒予防に努めている。ご利用者個々の排泄能力に応じた必要な介助が行われ、布の下着を着用し、自立されている方もおられる。下着汚染時の介助を拒否される方には素早く対応し、適宜シャワー浴も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、健康管理の重要項目として、管理表を作成し、原因の把握や、服薬によるコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は、月、水、金、と入浴の曜日を決めている、一人一人の希望やタイミングについては、声をかけるときなどに話しているが、拒否の方には通用しない	入浴が大好きで長湯の方もおられ、体調に応じて適宜声かけをしている。入浴の順番の希望も叶えるように努めている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、体調に応じて2人介助も行われている。入浴を拒まれる方は原因の把握に努め、その日の感情に応じた声かけを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態や、希望にあわせ、実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日のミーティング等で症状の変化に対し看護師を中心に、用法、用量の変更など常に主治医との連携を図り、職員に徹底している 薬の効能や副作用などをまとめたファイルをいつでも見れるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応が多くなっており、入居者同士でのレクリエーションなどは少なくなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周りでの日光浴程度である	体調などもあり、外出を希望されない方もおられる。ホーム2階のベランダから青い空や海を眺めたり、1階の玄関先でプランターの花を眺める機会が作られている。代表の運転で展海峰や海軍墓地の花見に出かけ、菖蒲やコスモスなどを鑑賞している。今後も更に、ご利用者数人での個別の外出を増やしていく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在対象者なし		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族宛の年賀状を出すように支援を行った電話に関しては、ほとんど無し		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉、必要に応じた照明の使用、湿度、温度計のチェックにより適切なエアコン、加湿器などの使用、行事に合わせてホーム内の飾りつけなどの実施	ご利用者は、日中はリビングでゆっくり過ごす事が多い。昔の歌番組をビデオで観られたり、CDを聴きながら、曲に合わせて唄われている。リビングや廊下の壁には、職員手作りの折り紙の作品が飾られ、ホーム周辺に咲いている花も飾られている。1階の喫煙スペースでは換気扇を使用し、防災マットなども敷き、火災予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所作りは出来ているが、お互いに楽しく過ごせるようなコミュニケーション作りの支援が思うようにできない 居間でテレビを見たりして過ごすことが多くなっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持込に関しては、本人の要望があれば、家族との連携を図ったりして対応している 庭で摘んできた花や、本人が作ったもの等を飾ったりしている	各居室にはタンスやテレビ等を持ち込まれている。出窓やタンスの上には人形や写真等が飾られ、思い思いのレイアウトになっている。仏壇や遺影を飾られている方もおられ、時々手を合わせる姿が見られている。隣の小学校のプールが見える居室もあり、子ども達の元気な声が聞かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の安全性に関しては、新たに改善できることはそのつど実施している 歩行器の使用により施設内での移動など自分で出来ることは自分でしてもらっている		